EHT LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十二月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十五號

毎月三回發行

續文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕求婚の輕忽● 中外新報〕拾二件●〔學藝一斑〕植物學一斑 ●〔對譯〕泰西の箴言○勿の語譯 ●〔列女傳〕晉女栃澤豐の傳（前號の續）●〔雜記〕男子に對する婦人論○加藤氏演舌の大意○婦人の讀べき小説 ●〔新作物語〕一躍全命海上の奇偶（第二回の續き）●〔家政要報〕數件 ●〔御伽草〕年とりたる犬○數學問題○考へもの〻題●〔寄書〕産蓐の處置法

◎女學叢誌

求婚の輕忽

婚姻と社會の基礎にして人生の大本なり夫婦ありてこそ親といひ子といひ兄弟姉妹などいふこともありて一家ともなし一國ともなすこととなるがゆゑに一身の幸福なるも不仕合せなるも一家の齊ふも齊ざるも一國の富みて强かるも弱くて貧しきも人民の多きも寡きもみな婚姻によらざるハなかるべしされバ支那にても婚ハ人の大禮といひ歐米にてもこれを神聖なる結合となして重んずる所以なり國あれば家あり家あらば必ず夫婦あり實に婚姻ハ社會の基本にしてその關係するところ甚だ廣く至て重し啻に一生の中に重きのみならず後世子々孫々にいたるまでも遠くその影響を及ぼすものなるがゆゑに婚姻を結ぶの初めに於てその夫たりその妻たるものを選ぶことも

まだ愼しみ重むせずんばあらざるなりこれ今さらこと新らしく述べたつるまでもなきことながら世にハ兎角にこのことを輕んじさまで愼しまざるものあるハ歎かはしきことの限とこそいふべけれ世の中に何事をなせばとてその初めを愼まずんばいかでかその終りをよくすることの叶ふべき况して人生の大本たる婚姻に於てとやされば男女相選ぶの方法を講せずてハあらざるなり

然るに先月廿四日刊行の時事新報に左のごとき廣告文を掲げたるものあり

〔求婚〕大阪の或る商家の主人にて年齡ハ廿四歳有爲活潑身体强壯且つ品行も方正なる好男子にして財産も相應に所持せり今般東京の方にて十七八九歳位にて相當の教育を受け且つ容貌も醜からざる婦人と結婚いたし度望みに有之候間右に適當せる令孃を持る御方ハ至急下名まで詳細御報知被下度候祖ば相整ひ候上ハ本人上京いたし万事御相談可致はづに御座候尤も御請求に依りてハ寫眞を交換可致候也

余輩ハこの廣告を讀みて如何にも求婚法の造作なきに驚き居たるにまたも今月十一日の同新報に娶婦の廣告と題し去月三十日の藝備日報廣告欄内に上のごとき標題にて左の廣告を載

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

せたりとて掲げたると見るに

余が朋友に左のごとき人物あり今度相當の婦を迎へんとす御望みの御方ハ藝備日報社まで御通報を請ふ

一年齡　廿六歳

一容貌　色白く丈高く髪黒し

一言語　議論ハ序を逐ふて違はざるも平素寡言なり悪を訐くを欲せざるも直言少しも忌むところなし

一性質　剛毅事に屈せざるも朴直物を愛するの性あり嚴正序を違へざるも忍耐苦を厭はぬ質あり

一品行　儉素にして悪衣悪食を厭はざるも洗浴して居常身衣の清潔を欲し時に青樓に登り常に清酒を嗜むも謹愼して終始擧措の亂雜を制す

一職業　文筆の技倆を以て三旬に巨金を得る
但し代言人代書人筆耕人雇使寫字生書畫家に非ず

一家産　三十坪の本宅及び貸屋一軒あり公債証書數枚を所持するの外山林耕地を所有せず

一家族　婦を娶る戸主某の外年齡六十歳の老母一人あり

右の廣告文を讀みて余輩ハ益々我邦人の婚姻を重むせざるを歎息せずんばあらざるなり

抑々婚姻を結ぶに當り第一に選ぶべきハ男女相互の性質なり苟も性質相適ハざる時ハいかでか夫婦協和して偕老の樂みを享る事の叶ふべき第二ハ體質なり體質善良ならざる時ハいかでか健全なる子孫を擧らるべき第三ハ財産の釣合なり性質いかに協和するも體質いかに健全なるも財産の不釣合なるが爲双方若くハ一方の幸福を損する事世間に間ある習ひなり其他年齡なり容貌なり言語動作に至るまで其目多かるべしと雖も皆一見一聞にして以てその如何を盡し得らるべけれども玆に掲ぐる三要に至りてハ中々に一朝一夕の交際を以て知り得らるゝものならず況て媒者の口頭に依らるべき其中最も知り難きハ人の性質にして之に次ものハ體質なり生れて未だ醫藥を要したることなきも生來の體質既に善良ならず殊に遺傳病の恐れあるものハいかに外見の健全なればとて之を病者といふべきなりこの三要を忽かせにする時ハ決して一家の幸福を保つこと能ふべからず然るを前のごとき一片の廣告を以て婚を求めんとせるハ之を粗忽なりといはざるを得ずされバこそ我邦にありてハ離婚の數多しといふも全く結婚の初めに愼みて相選ぶことを忽かせにするが爲なり然れども男女交際の道開けずんば何に由てか選ぶべき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○東京高等女學校生徒教導方要項　東京高等女學校生徒教導方の義につき去る六日文部省總務局長より左の要項を同校へ訓示せり

東京高等女學校生徒教導方要項

一生徒は尋常小學校の課程を卒りたる以上若くはこれに相當せる學力あるものを入學せしめまづ女子生涯の職分の基となるべき普通學科を教へ尋きて一家の責任を負擔するに切要なる學科および藝能を習はしめ最後凡そ一年間は夫妻の關係、舅姑に對する心得、育兒法、家事整理法、婢僕に對する心得、朋友親戚等に接する心得および交際動作の心得等講究せしむること

一日本舊來の女子職分および習慣にして善なるものは愈々これを進め不善にして改良を要するものはその尚は存在する間はこれに和して同せず漸次圓滑にその改良を遂るの要旨を教訓する事

一體操は年齢適宜の業を課し以て健康および姿勢の良全を圖ること

（本年十二月八日官報）

○華族がたの令孃　近ごろ或る貴顯の思し立たせたることなりとか未だ結婚あらざる華族方の令孃をば宮中に奉仕せしめらるゝことゝなさんには宮中に出入あらする貴婦人がたの動作をも見習ひ内外の貴顯貴婦人がたとの交際もおのづと繁かるべき道理なれば令孃がたの品位を進むるの近道ならんとて以來は華族方の令孃の結婚せらるゝまでに必ず一たびは宮中に奉仕せしめらるゝことゝ相成るよしにいへり

○音樂會　前號に記したるごとく文部省編輯局長伊澤修二陸軍教導團御雇ひ佛國人ル、ー兩氏が發起の日本音樂會の設立整頓したる上は上野公園四軒寺町なる文部省直轄の音樂取調掛の事務をも同會に依囑せられ同掛りは廢せらるべしといふものあれど如何にや

○華族女學校　少し富饒に暮せる家の子供が學校へ通へるを見るに年若き下婢守娘或はその子と同じ年ごろなる僮など附き添ひ居れるもの間々ある風なるが元來學校の教員たるものは書讀もの習くとを教ふるのみならず父母にもなり代りて何くれと生徒の世話をなすべきものなるを家にある時は兎も角學校にいたるはいかで斯る附添ひなど要すべき殊に教育學にていふ學校内生徒の同情を養生するに大いなる妨げとな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れるをや今度華族女學校にては生徒取締の法を改め年齡十歳以上の生徒は人力車に乘りまさは僮僕下婢など從へて昇降することをさし止められたるよしこれ等は敎育上進步の一端とやいはまし華族にて在するさへ斯のごとし况てたゞ人にてあらんもの〻子供が小學校に通へるとや

○裁縫專門科　府下各區の公立女學校へ今度特に裁縫專門科といふを設けらる〻由にてその筋に於ては現にその方案中なりといふ

○神宮敎院　にては布敎の近道は實に婦女子を敎化するにありされば耶蘇敎徒は頻りに女學校を設けて專ら女子を誘導することに勉めたるを我が敎院にてはいまだ然ることなきこそ遺憾なれとて今度有志者を募り一の女學校を設立せらる〻よしなるが如何なる學科を敎へらる〻にや眞逆に古き御國ぶりに返さんなどの敎育にはあらざるべけれど西の國の彌開けに開け行く道を以て敎育あらんこと余輩が鵜頸突扳恐こみ惶こみて願ふになん

○學士會院の演舌　去の十二日上野敎育博物館の講義室に於て開かれたる同院の演舌には豫てより加藤氏の男尊女卑の是非得失といへる演題の廣告もありたれば記者も傍聽なすべしと疾より用意したりしが當日障ること出來て得果さゞりしと殘りをしかりしされど舍友が歸りての話しに女學校の生徒にや婦人の傍聽せるを十人あまりも見受けたりといへり

○慈善音樂會　先ほど築地の訓盲啞院にて開かれたる同會の収入會高は六百三十五圓ありしと六七日前に悉皆同院へ寄附なりしよし

○共立女子職業學校　にては追々生徒增員する趣きにて今度二百餘名の生徒を入る〻べき校舍を新築することゝなりしよしまた同校へ入學せんが爲め遙々地方より出京する生徒もあるよしにて學校近傍へ下宿所を選定中なりといふ斯く日々に盛大なるがゆゑ遠からず校則も改正せらる〻よし

○婦人矯風會　矢嶋カチ服部チヨ海老名ミヤ等數十名の婦人がたか發起にて題號の會を設立せんとて去る十一月中虎の門外なる會堂に同志者を會して協議ありたるにいよ〳〵設立のことに決しその際矢嶋カチ外五名を創立委員に選び同會の規則草案の起草などを托したりしが規約書等の草案出來上りたるを以て本月六日日本橋區兩替町なる會堂に於て發會ありしに會するもの五十一名規則など議決したる後議員を選擧せしに矢嶋カチ外十五名が當選せられしにより再び會頭書記會

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

計等役員五名を選擧せり卽ち矢嶋カチ氏ハ會頭に佐々木豊壽服部チヨの兩氏ハ書記に海老名ミヤ三浦リウの兩氏ハ會計に孰れも當選せられよ依て假りに會場を兩替町の會堂中に置き同所にて事務を取扱ふる由なるが同會の目的とする所ハ社會の弊風を矯め道德を修め飮酒喫煙を禁じ婦人の品位を上進せしめんとするにありてその規約の大要と聞くに凡そ會員たるものハ矯風の主意と擴張することに全力を盡し每年三月に大會を開き二、五、八、十一月の四度に定式會を開く筈にて每月三錢以上出金するものを會員と稱し一ヶ年に一圓を納るものを贊助特別會員と稱するよし記者ハ益々斯る會の盛大ならんことを望むに外ならず

○婦人の喫煙　前項の矯風會員ならずとも婦人の喫煙ハいと見苦し永年嗜み來りたるを俄かに廢せんハ生理上却て害ありなどの口實もあらんが責てハ公衆の打集へる公けの場所だけにても愼むことゝなしたしとかそハ彼のチヤリチの曲馬にて五十錢或ハ上等の場所へ入りたる婦人のスパ〳〵煙を吹きながら見物せらるゝを見受けたるハ外國人も入雜れる場所とて殊に見苦し家に在てハ平常餘に嗜ざるも外へ出る時ハ故更に前の左の方の帶に煙艸入を揷ものある抔ハ倘更に思へる

○下田歌子　ハ華族女學校の學監にていと忙しき身なれども職務の餘暇を以て同校敎授津田梅子に就て英學を學び居らるゝよしなるが同婦人ハ來年早々官命にて歐米諸國を周遊し各國の女子敎育法と實視し且つ各國帝王の宮中の模樣なども取調べらるべき筈ありと時事新報に見えたり

◎學藝一斑

○植物學一斑

第二章　有花植物の總論

前に述べたるがごとく植物界を大別して花咲く植物と花の咲ざる植物の二つとなすと以て初めて植物學と修むるものハまづ花咲く植物より始むるかた便利なりこれ双方同時に學び得られざるのみならず花なき植物に就き硏究するにハ一層精密なる顯微鏡の力を要し且つこれと使用する熟練をも要ずるがゆゑなり

扨て花咲く植物にハ左の機關卽ち部分あり乃ち、根、莖幹、葉、花にして花より實を生じ實ハ種と有せり大抵有花植物にハ根なきものハなくまた時としてハたゞ根の端に芽あるのみのものもあれど總て莖幹を有せり稀にハ菟絲子のごとく葉なきも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のありこれらハ他の植物の汁液を吸ひて生活するものなり多くハ一つの軸を有せり

花咲く植物の機關を軸と軸葉との二つに分てり軸とハ根と莖との分るゝ所をいひ軸とハ葉また花の各部をいふ

また各部の作用につき分つ時ハ支持する爲めに根と莖とあり榮養の爲めに根と葉あり再生の爲めにハ花となり實となり種々なる者を有せり

然れども地上に密着せる植物ハ根のミを以て支持をなしまた牽牛花のごときハ蔓を卷き附けて支持し葡萄のごときハ蔓にて支持し或ハ葉莖にて或ハ花蒂にて卷き附き或ハ輪となりたる刺にて或ハ粘着する液を出して取り付きまたハ水草のごとく空氣を含みたるものを浮てべ支持するもの等あるがゆゑに前の區別ハ甚だ粗なる分け方なり

根ハ吸収する機關にして葉ハ蒸發および化合する機關なれどもこれまた葉のみにあらず植物中他の青色の部分ハ皆多少此作用あり

また種ハ再生を司どるところなれども前にも述べたるがごとく百合根のごとき或ハ葱のごとき馬鈴薯のごとき再生の法異るものありされば一概に前の區別に從ひがたし

◎對譯

(甲)①黒き②牝鶏③白き④卵(を)⑤産み⑥得る

(勿の語譯)①大陽②の③全き④光輝ニ⑤迄⑥露ハル⑦時⑧一ノ⑨顔ガ⑩愛ラシク⑪有⑫得⑬莫⑭事ヲ⑮忘ル⑯勿レ●①帽ハ②容貌ガ③半④蔭ニ⑤於⑥⑦投ル⑧⑨様ニ⑩⑪造ラル⑫可⑬何レ共⑭眼ニ⑮於テ⑯遊ビ⑰而⑱頬ニ⑲於⑳往來スル㉑所ノ㉒美麗ナル㉓半蔭ガ㉔女ノ㉕美ニ㉖迄㉗其㉘最大ノ迷心㉙の㉚一ヲ㉛與ル㉜故ニ●①流行ガ②頭③の④後ニ⑤於⑥帽ヲ⑦推ス⑧時ハ⑨夫ヲ⑩忌レ⑪夫ガ⑫鼻ニ⑬於⑭居⑮らる⑯可⑰帽ヲ⑱命ル⑲時ハ⑳其㉑壓制㉒の㉓犠牲ナ㉔有㉕可㉖拒メ(意譯ハ雑記欄内の末に掲ぐ)

MAXIMS & PROVERBS.

(甲) A black hen can lay a white egg.

① ② ⑥ ⑤ ③ ④

〔意譯〕黒き牝鶏も白き卵を産み能ふ

DON'T (NASUBEKARAZU).

DON'T forget that no face can be lovely when exposed to the full glare of the sun. A bonnet should be so constructed as to cast the features partially in shade, for the delicate half-shadows that play in the eyes and come and go on the cheek give to woman's beauty one of its greatest charms. When fashion thrusts the bonnet on the back of the head, defy it; when it orders the bonnet to be perched on the nose, refuse to be a victim of its tyranny.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

○賢女梅澤豊の傳　（前號の續）

車ひく男は下婢が汲みて出したる澁茶に咽喉うるほしつゝやをら暇と告て歸らむとするを霎時と呼留めて立出たるは此家の妻なるべし斯ばかり寒き夜なれば疾歸らむと思ふも理りにて家に待わぶる妻子もありぬべきと心無きわざとは思はぬよしもわらねど今途すがら語り聞せつる阿豊とやらむの行末のいと覺束なきに聞きさして止むは遺憾ければよく聞取てよとて妾をば出されぬるは何か意裏に感じ賜ふとのありとぞ覺ゆる人の惡きふしを包みて善きことを云ふは愛たきとと聖も說せ賜へりとか然れば其方が往きあふ端にも聲をかけて力を添へ慰めしは善人のわざと此方にもこしのたゆかしう思ひ賜ふなるべし車ひきて馳走るほどころ寒さも忘れめ休らひて在る程は堪へ難きものぞとよ戶口も引たてよかし火桶もこゝへなど忠誠だちていへば車夫は手に持り手拭の豆絞りよりも粒だちたるあら淚をはら〳〵と流しつゝ一里にも足らぬ路と載せ參らせしのみにて何の由緣だに無き身の怪しき物語をさばかり憐然と聞せ賜へるは畏けれど今の世よ類ひ多うらぬ情深き御方とこゝろ覺え侍れさるうらは事長くとも猶ありのまゝに申し侍らむを聞せ賜へかし彼お豊はある日主なりける寡婦にいふやう此我善坊町の御家は廣しとにはあらねど四室五室わり這入の庭うらてのつぼ前栽も七坪十坪もありぬべきを絶ず淸らにと心懸賜ふは容易のふず旦暮に塵うち拂ひ拭ひ賜ふも斯う齡そゝぎ賜ひては腰たゆく堪がたく在そらむ夫のゝあらず近隣の人々も西久保より物ゆたかに送られし程の事をよく知れば萬につけての入費もなほ同じさまに取らむといふは道理なきにもあらずありし儘にもて崇めて卑しめ落しむる事よろなけれ今はなか〳〵さるとのいと心苦しう人知れぬ物思ひの種ともなりぬれば何方にもあれかこかなる處に住まどころかへてうしろ安うし賜ふことゝろは在せずや御隱居料もまへまへの樣にはあらず家も廣くてなどのたまへは然るべき人に貸したまはずやなどは聞合するものもあれど心知らぬ人と住せてよしなき物思ひせせむよりは明日香川のせにかへても心安うせられむところ先何よりもさきなるべければなどいふは聊かにても其代にて後々の準備ともさせむの誠心なるべし寔に住馴れつる處に放るゝは悲しき限なれど此一二年葺も改めぬ板屋の軒は夜はの嵐も後めたく各室の疊も色づき損はれたれど

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夜の衣ならで返すべき時といつとも定めねバ人もすさめず住荒さゞらむほどに賣るこそよけれと思ひなりてお豊のいふがまに〳〵請ひ望む人にとらせてぞはじめて今の家には移り住れぬる此時までも阿豊には強て藥をもすゝめられればまたみづからも神に佛に眼の病ひとたび癒させ賜へと祈て毫おこたらざりしかど年を重ねてその効なければとて思ひ締らめつゝ田町なる松田何某とて醫のわざにも疎からず導引とかいふことをばわきてよくする人の許に通ひて揉療治をならひ覺え終にこを營業にして晝夜をいはず遠近たどり歩くととなりぬとか然れどこのあはれなることを知らぬ人は今この事仕果てゝなど云ひつゝ甲斐なく待せてとき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

過さするもあり大あらぎの森の下艸の駒もすさめぬさまながらに女按摩は療治の外によき錢を得るよしのあるものぞなど怪しかる事いひ懸て胸轟かするもあり貸座敷などに揉する人は定めの賃よりも多く物くるゝ事もあれど夜の更るをものとも思はぬ慣習なれば歸るさの淋しう怖しきめに遭るともあり店の男二階の者などにもあそれに憎からず思ひなさるゝ樣につとめねばこよなき損あるともおそと心遣ひし又旅人宿などに招れて往けばいざとて肩差向らるゝを揉むにすべて板のやうに堅くて汗あゆる迄力入るゝもなほきかずとて腹立つ人などのある時は物もとらで歸るともなりとぞ斯く辛う苦しき中にも此筋にて活計の道を立むとの意なれば得るものは悉皆主人の寡婦のまへに出して飯にも薪にもといへど夫のみにては物足るべくもあらねば彼家賣りし金さへ追々に出し果て今は毫殘らぬやうになれりとか聞けどさる悲しく心細き事をさかせむは遉にて深く包み居らるゝよしは仄に承はりぬ此比も主人の寡婦の涙ながらに語るを聞けば西久保なる主人夫婦は何方にあるやらむ知らねど財産もたかに讓りつるを失ひて家の名をさへくたしたるに比較れば阿豊が假初の雇ひの身のはてにてかく心ひとつに仕へて物憂きさまをも見せぬは實の娘にも優りて悦ばしさ限なけれど我無らむ後は又如何なりゆくらむと思へば胸痛きまでになむと歎れしは道理せめて慰めがたう候ひきといふ〳〵此男も涙おし拭ひつゝはや退出侍るべしとて出行くを主人の妻が引とゞめて又何程か紙にひねりて取らせるは車よりも此奇特なる人の物語りに深く心ひかれてのことなるべし

（以下次號）

前號の上段四行夕の傍訓ゆうはゆふ同五行覺束なの傍訓とぼつかはおぼつか同八行劣るの傍訓いとはおと下段十九行切の傍訓せつはせちの誤植なり

◎雜記

○男子に對する婦人論

記者は常に婦人たりとも男子の爲すべき事を爲し得られざるの道理なき事を主張するものなるがこの頃弊舍に達したる米國ボストンにて發行せる教育雜誌を見るに題號の如き短き論文を掲げたり之は嘗て全國教育會議に於て婦人の高等教育に反對を唱へたるハンコック氏の說を駁したるものなれば左に譯出して婦人論者の參考に供せ（因に記す米國全國教育會議の筆記を見るに婦人に高等教育を授く可との

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

論者の勢、力甚だ盛んなりしと見えハンコック氏の説に反對するもの多かりし）

全國敎育會議に於てその委員の「婦人職業敎育の報告書」を議したる時トペカのハンコック氏ハ曰く「若し百人の婦人が百人の男子の位地を奪ひたらんにハ其奪はれたる男子ハ如何にかなすべき、婦人を入れんが爲に男子を追ひ出す事ハ果して良き事なるか、婦人をして家事の主宰たらしむるハ世界を通じて必要のことなり、婦人に職業を授くるハ婚姻の數を減ずる道理なり」と是れ甚だ怪しむべき議論なり

若し百人の婦人が百人の男子と競爭しよく男子に勝つことを得たらんにハ其男子ハ何故にまた他の百人の男子と競爭をなさざる、若又婦人ハ男子よりもよく仕事を爲し得んにハ何故に男子を追ふて其婦人を使用せざる乎、男子ハ更に婦人の競爭し能はざる他の仕事を求めて之に從事して可なり

扨てまた婦人をして家事の主宰たらしむる云々と婦人に職業を授るハ婚姻の數を減ずるといへる二箇條ハ婦人の職業即ち生活の準備を爲すといふ議題にハ全く關係なき考案といふべし自ら好で嫁せざるものを止むを得ずして獨居する婦人の數ハ年々に增殖し年若き婦人にて人の妻となる迄ハ自ら獨立して生活せざるを得ざるものゝ數も亦年々に增加するに非ずや而して既に人の妻となりたるものも身に職業の嗜みなく或ハ寡婦となりて一錢の貯へもなきものゝ數ハ年を經るも尙ほ減じたりといふことを聞ざるなり然るに是等の婦人ハ如何なる手段に由て己れの自立を計り或ハ又己の愛する人をも助けんと欲するか之余輩の問はんとする議題なり己の良人とも助け父母をも孝養して幸福なる暮をなし遂しめんとの議問を措て顧ざるか甚だ怪むべし最早今の時ハ無痴息災にして智惠もあり考もある婦人が爲事もなくて只に養はれんが爲に嫁入するが如き時にハ非ず斯る野蠻の時代ハ既に過去りたり

全國敎育會議に於て此議題を議したる人々の中ホワイト氏の議論こそ適當なれ氏のいへる如く如何にして幸福なる暮をなし得べきやといへる疑問の答ハ世の婦人自から實際に實行せずんばあらざるなり余の聞く所に據れば歐羅巴諸國に於てハ一家内中に蒸餅を得るもの只一人にてハ充分ならず其家の妻たり母たるものもまた良人を助けて日々の蒸餅を得る事に從はざる可らずとなせる由我米國に於ても斯の如くならんにハ一家の幸福を增す事一層多かるべしされば婦人をして職業を學び良人を助けて男女共々蒸餅を得んが爲めに劇き競爭の眞

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

中に立しむべき事なり

○加藤氏演舌の大意

去る十二日上野なる教育博物館講義室に開かれたる學士會院の演舌に於て「男尊女卑の是非得失」といふ加藤弘之氏の演舌の大意ハ左の如し

凡そ世の事物ハ日々變遷進化するものなれば事物を論ずるにその現在の有様を目當として論ずれば大なる誤ちに陷るものなり昔の學者社會に地球ハ宇宙の首領なり人類ハ萬物の首領なりとの謬説あり即ち地球ハ宇宙の首領にして日月星辰ハ皆地球を照すが爲めに存在するものなり萬物の人類の爲めに存在するものなりと信じ居たることとなるが甲説ハ天文學の進歩に由て潰れ乙説ハ進化説の出たるに由て潰れたり畢竟人類を以て万物の靈とせる説ハ現在の人類を見て昔より斯く發達し居るものなりと思ひたるよりこの誤謬を生せしものならん又事物ハ始終進化するものなれバ既に進化したる後にハ無用有害のものにても未だ進化せざる以前にハ却て必用なりしものもありしならん譬へば宗教のごときも未開の世にハ甚だ必要のものなりしが今日進歩したる學者社會にハたゞ無用なるのみならず理學などの進歩を妨げて却て害をなすものゝ如しされバ倫理なり道德なりその時々に相應して有益なるものにて後世に有害となる事あるも知る可らず然るに此道理を知らず儒者ハ孔孟教を以て萬世の教とし耶蘇教家ハその教旨を古今に亘りて遵奉すべきものとなすハ大なる惑といふべし扨て男尊女卑ハ開明の世にハ甚だ有害のものなれども社會進化の段落中男尊女卑の必要ありし時もあり野蠻の民ハ配偶を定めず衆男衆女を共有して所謂共同配偶の有様なりしが一層進て一夫數妻數夫一妻となり遂に歐洲の一夫一妻と發達したる事なり而て共同配偶の時代にハ眷族といふものなし然るに一夫數妻數夫一妻の時代に移りて一家眷族をなしたるハ男子が女子を壓制してこれを一家の内に封じ置き男尊女卑主義を執行したるが爲めなりされバ當時に在てハ男尊女卑主義も甚だ有用なる働きをなしたりといふべし然るに今日となりてハ男尊女卑主義も有害のものとなりたればこの風習を破らざるべからずこれを破るにハ女子自からその教育を進めて男子と併立する程の資力を養はざるべからずされば男尊女卑の風習ハ今日に有害のものとなりたれども是ハ世の進化したるが故にして昔より有害なりしにあらず男尊女卑の事を論ずるにハこの考へなくんばあらざるなり云々

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○婦人の讀べき小説

十月ごろとかウヱルスといへる人が婦人の讀むべき書物ハ如何なる書物なるやとの問題を發し諸學校よりの投票を求めたるに千箇の學校女生徒より小説作者の名を記して投票せし中五點以上のものハ左の如しと女皇新聞に出たり

Charles Dickens	330	Bunyan	11
Sir Walter Scott	226	Miss Braddon	11
C. Kingsley	91	Mrs. H. B. Stove	11
C. M. Yonge	91	Miss Worboise	10
Shakspeare	73	H. Ainsworth	10
E. Wetherell	54	Lord Tennyson	9
Mrs Henry Wood	51	Miss Montgomery	9
George Eliot	41	R. D. Blackmore	9
Lord Lytton	41	W. Black	8
Longfellow	31	Defoe	8
A. L. O. E.	30	Mark Twain	8
Andersen	29	F. Smedley	7
Hesba Stretton	26	Carlyle	6
Canon Farrar	22	Miss Edgeworth	6
Grace Aguilar	21	Miss Havergal	6
Grimm	19	John Ruskin	6
Thackeray	18	Lewis Carroll	5
Mrs. Walton	17	R. M. Ballantyne	5
Whyte Melville	17	C. Bronte	5
W. H. G. Kingston	16	Mrs Gaskel	5
Jules Verne	16	Mrs Hemans	5
Mrs Craik	14	Mrs E. Marshall	5
Macaulay	13	Capt. Marryat	5
Miss. Alcott	12	F. Anstey	5

○婦人の心得（對譯欄内に掲げたる意譯）

顔を丸出にしたるハ決て愛しきものに非ずといふ事を忘るべ○○○からず帽子ハ半陰となるやうに作りたるを良とす何となれば眼の所にて蔭となり又ハ頰のあたりにて見え隱れなるハ婦人の美なる上にも尚ほまた嬌態を裝ふものなるが故なり帽子を頭の背後に冠る事流行するとも之に從ふ可らず鼻の先を被ふ程前面に冠るとの流行するもまた從ふべからず

◎新作物語

○一躍全命海上の奇偶（前々號第二回の續き）

Ellison ハ「Lovell 婦人、大變な事になりました、私しの申したことハ眞正の事になりました」と聲掛くるにぞ、Lovell 婦人ハ両の手を握り詰めながら「眞正にさうでございます」「貴婦方ハ何處にお在なすッたか、私ハ方々尋ね廻る中に、遊艇ハみな往ッて仕まひました」「妾しどもハ、室から出て參りましたのが遲くて、既う遊艇ハみな往ッて仕まひ、兎ても助かる事ハ出來ますまい、妾の身ハ消えかゝッて居る蠟燭の心と同じ事でございますから、此孃……このClaraが助かります事なら、妾しの死ますのハ少しも構ひません」「まだ〳〵機會があります、お互ひに助る機會があります、もしお互ひに前に出た、最終の遊艇へ乘ッたなら、夫れこそ此世の暇乞ひ、貴婦の出やうが遲ッたのハ誠に幸ひで……」といふをも待ず Lovell 婦人ハ「併し機會が……まだ如何機會がございませう、船ハこの通り沈むで參りますし、妾どもハ兎ても助からぬと思はれます」「船ハ追々沈みますが、まだ二三時間ハ保ませう、その中に夜が明けて來ると、見附ッて引揚られませう「見附ッて引揚られませうか、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

もしさうなら、皆なと辛抱して居らば助かりませう、妾は今晩の心配が病氣に障ッて、兎ても辛抱は出來まいと思ひます、ツコで Ellisn さん、只た一ツお願ひがございます、何卒頼まれて下さいまし、もし助る機會がございましたならバ、此孃…この Clara の世話をおさッては下さいますまいか、この娘さへお助け下さらば、妾は如何なッても、既うこの世に思ひ殘すことはございません「ハイ屹度請合ました、誰でも一人助かりさへすれば、必ずこの娘は助かりませう、ろの事はご心配には及びません、命にかけて請合ました「誠に有難うございます、左樣お引受け下されば、天道さまからお報ひがございます」と云ひつゝ Lovell 婦人は Clara を引寄せ抱きしめ、少女の頭らに顏おしあてゝ、霎時語もなかりしが稍々ありて「何事も貴所にお任せ申します、宜しいやうにお世話をなさッて下さいまし、ご覽の通り妾の時計も指輪もこの娘に渡しました、而してまたこの娘にお困り成さるやうなことがございましたなら何へ…」といひ掛け少し猶豫たりしが「アノー何へ…Chiswisck の公園町十三番 Peters 婦人へお尋ね下さらば、妾には誠に素氣ない人でございませけれど、この娘の大伯母でございますから、眞逆に何とかして與ませう」といへるを聞て Ellison が「併し貴婦も助かりますョ、貴婦ばかり助かられぬといふ道理はございません」といへバ Lovell 婦人頭らを振り「助かッても兎ても存命ては居られません、既う何だかあの世の暇乞ひも段々近寄ッて來るやうな心持がいたします」と抱し Clara の頭に肩おしあてゝ、頬のあたりをキッス(接吻)なすに、無心なる少女は前夜よりの疲勞にや、話の中よいつしかスャ〳〵●と睡りたりしが、恩愛のキッスは夢の中にも通じよけん、微笑〳〵と笑顏つくりし愛らしさを、見る慈母の胸の中は如何ならん、碎くるばかりに思はれて傍よ見るさへ哀に堪へかねてや彼の Ellison は外套肩掛など Lovell 婦人にうち着せつ立上りて二足三足甲板を歩み出で、來り助くる船もやと、右り左りに見廻せど、黒白もわかぬ闇の夜の、曇り勝なる心にはいとゞ暗くて目に見ゆるものはなく、たゞ波風の叫ぶ音のみぞ聞えける

斯くてやう〳〵東のかた明なんとしつるころとなり、四方八方見渡すに、風に怒れる波の逆卷くのみ、船は漸次に沈み行き今は甲板の片端少しばかり波上に出たるが、それさへ折々波うち越して、冬の朝風の身を刺すばかり凜烈く、いと厚き外套肩掛を着たるも倚ほ防ぎがたかる寒さとも、今はものかは、二人は鐵のごとく凍えたる手を握り合せて、心に神を念

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

じつゝ、死をまつ外ぞなかりける、Ellison ハ聲勵まし「ア、上帝ヨ、助け給へ、斯やうに、敢果なき我が身にも、まだ〳〵此世に望みあり、助からせ給へ、願くハ私しをしてこの少女を助けしめ給へ」と祈りつつ尙ほも助け船の來れる事もやあらんかと、瞬きもなさず見渡したり、さてまた Lovell 婦人ハ兩の手以て顔を蔽ひて居たりしを少女の Clara ハその手を取除んとなしつゝ「慈母さん何して……何故顔を隱すのですヨ、慈母さん顔が見たいかふサア、オー寒いこと妾の人形も寒からう「オ、お前ハ可愛い娘だ、今いふて聞して置きますが、Ellison さんの傍に居て、何でもおッしやる事をよく聞くのだヨヨそして世話をやかすのでハあり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ませんヨ、何ごとも Ellison さんが世話をして下さるから」と慈母の語を聞くにつけ、子供ごゝろにもいと悲しく覺えけん、Clara ハシく〳〵と泣ながら Lovell 婦人に取り縋り「それでも慈母さんも依張供倶に世話をしておくんなさいヨ、ヨー「オヽ〳〵爲ますとも〳〵、世話ハ爲るが天國かふ爲る程に、温柔うしてよい娘で居るのだヨ、ヨ Clara、そ……而して常に神さまをお祈り申すと神さまがお……おま……お護り下さるヨ」と涙ながらに語れる折こそあれ Ellison ハ大聲あげ「ヤ、帆が見える…帆が…帆が遠くにチョンボリ見える…此方へ向けて來る」といひながら船端に飛び立て紅色の肩掛と白のハンコルチーフ(手拭)とを振り廻はしつゝ聲の限りと叫びけるに漸次に寄近り來るを見ればスクーノル形の船が武世發魯西丸のかたを指して來れるなりされど逆浪蹶たてゝ駛り來れるの遲くて數分時間も數年がほど經ぬる心地せられて待ちわびしきろの間の數分時ハ恰も生死と掛け合はしたる權衡の棹のごとく何れ重しとも見えざりける

三人ハ息をもなさで彼の船を眺め居る中に船ハ頓て近寄り來つ遊艇卸して漕ぎ來りぬ Ellison ハ見るより早く縄もて婦人の胴中を縛りながら「私ハ Clara さんを連れて先へ飛びますから、貴婦ハその跡でお飛びなさい、先きへこの娘の助かる方がお望みでせう「さうでございますとも、どうぞ Clara を先へ」といひつゝ、少女を引き寄せ恩愛の情を込めてぞキッスなしけるを Ellison ハそのまゝ抱きて水音高く飛び込みたれば、遊艇なる水夫どもハ早くも二人を引き上げ、二人ハやう〳〵に危ふき命を助かりたり。斯くて Ellison ハ遊艇の中より手●を延ばし「サア Lovell 婦人、一飛びにお飛びなさい、私が捕へるから」と叫べるにぞ、婦人ハさらぬも色蒼き顔の、曉きの明りに映ひて、いどゞ蒼白たる顔色して、やゝら船端にたち寄らんとしつる折こそあれ、後背のかたにて、何れに潜み居たりけん、彼の Boyd 荒々しき聲して飛びいで、婦人に結びつけたりし縄を以て引き戻し「ド、、何して、さうハさせぬ、おれを殘して助からうとハ餘りだ、を、、女子供ハ何でもよい、おれの命ころ十倍も大切じや」といひつゝ一生懸命の力を込めて飛んだりければ誤たず遊艇の中にぞ飛び込みたり Ellison ハ Lovell 婦人のかたのみ見つめて居たりしがこの折早く彼の時遲く武世發魯士丸ハ忽ち荒波に洗はれたるまゝ沈みて今ハこの世のものならず婦人もともに常世のものとなり果てゝぞ失せたりける（第二回畢）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎家政要報

○黒羅紗退色直　黒羅紗の洋服にて襟など羊羹色となりたるを一寸直すにハ濡れ切にてその所をよく拭き舶來上等の黒インキを日本筆にて引きよく乾きたるのちまた濡切にて拭く時ハ元の色と異ることなしと舍友より報じ越されぬ

○ズボン皺延機械　といふハ近ごろの新發明にして京橋區南傳馬町なる江尻勝藏より其筋の特許を得て發賣せし由なるが洋服にて疊の上へ着座するもの〻爲めにハズボンの皺をよく延バすがもゝ至極便利なりといふ

○蜜柑　本年紀州產地より積出したる蜜柑ハ總數十二番迄の中既に五番船まで着し溫州(紀州產)一箱極上旭鶴五拾錢中等天切三十七八錢下等十七八錢並蜜柑上等四拾錢中等三十錢下等ハ割合に高く廿二三錢位なりといふ

○海苔　ハ前號に近年になき上作なりと記せしが近頃の海荒れにて餘ほど損害を受け昨今のところにてハ餘り上作といふほどにハあらずとの投書あり

○白米　一圓に付一等米一斗三升五合、二等一斗四升二合、三等一斗四升七合、四等一斗五升八合、五等一斗六升四合

◎御伽草

○年とりたる犬　散遊亭　圓蝶　述

禮を貰うと思ッて人の世話をしたり報ひが受けたいと思ッて人を助けるといふハ眞正の心切や德義でハない矢張慾ばるのじやと聞ましたがこ〻に或る農家に永年犬を飼ふて置きましたがその犬ハ追々年を取り耳も聞えず齒ハ丸でなくなり少しも役に立なくなりましたソコで或る日その家の主人が女房に對ひまして「家の犬めハ既う役に立ないから殺して仕舞ふと思ふ」と申しますから女房ハ「役にハ立なくなりましたが永年よく勸めましたから死ぬるまで食物を遣ッて飼ひませう」「馬鹿アいッしやるな齒ハなくなッたし耳ハ聞えず盜賊の用心にもなりやアしない而して永年よく勸めたッてもその代にハ毎日食物を遣ッて養ふて置いたのじやアないかだから最早殺しても宜しい」と互ひに話して居りますを彼の犬が聞き是レヤア此頃に殺される事かと大層心配いたしましてその晩豫て懇意にする狼の許にいたり私ハ是々じやが何とか助る工夫ハあるまいかと相談いたしますと狼ハ心の中に何か工夫して禮物でも貰はうと思ひ「夫レヤア心配するにヤア及ばぬ己が

七百六十三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

工夫がある斯うじや貴公の主人ハ明朝早く夫婦で野原へ出て行くだらう左樣すると家にハ誰れも居ぬから嬰兒と連れて行くだらう左うそると二人が仕事をそる間嬰兒ハ木陰に寐して置て貴樣が番をして居るだらう」犬「ム、さうヨ」狼「ソコへ己が竊と行て嬰兒を攫ッて迯る」犬「夫レヤア憫然うだ」狼「マア聞ねへ、左樣すると貴樣が己を追へて來る、己ハ嬰兒と落として迯る、貴樣ハ夫を拾ッて主人に返そ、左樣すると主人が喜んで貴樣を殺さないといふ筋書だがどうだ」犬「成程うまい、感心だ、じやァ賴みまそ」と約束をして犬ハ歸りました(つゞく)

○數學問題(答ハ今月中)

間日十八間奥行廿四間の地所あり今これと同じ坪數にして奥行廿七間の地所と交換せしといふ時ハ其間口何程なるや

○考へもの〻題(同上)

左の歌ハ本邦歴史上の人物にて誰を詠せしや

さくら木よ思ふ心とにほとせてのちも吉野の花よろむかず

○前々號數學問題の答式

(甲)

7,5×=　53,9
33,0×(7×2)=462,0
+33,0
548,9

答五丈四尺八寸九分

(乙)

27:54=9,5:x

$x=\frac{54\times9,5}{27}=19$

答拾九錢

(答者)(甲)東京中村かね、今村常、品川新宿木村ひさ (乙)東中村かね、遠州濱松矢部革、品川木村ひさ

○前々號考もの〻答

(甲)平忠度(解當者)飯田春、南豫三樹、金子筆、陸前小野定代

(乙)アメ、ブリ、バモ、マス、アヂ、コチ、フナ、シコ、サバ、サハラ、以上魚の名十の中ハモ又はサバを除きタヒを入る〻も當れりとす(解當者)東京松井でつ、品川木村ひさ、下總佐倉中里たつ、同牧野すゞ、遠州濱松矢部革、南豫三樹、陸前小野定代

◎寄書

○產蓐の處置法　　飯倉片町　糸の家主人　誌

產后蓐婦を處置するよハ極めて安靜ならしめ止を得ざるに非ざれバ決て動搖すべからず故に居直床ハ良らず而して生殖器ハ可成淸潔ならしめ石炭酸水よ浸したる海綿と以て洗滌し又腰の周圍に汚物の殘らざる樣注意し通常の綿と股間に入れて陰部肛門を被ふべし時々淸潔の綿を以てその下泄物を拭ひ去るべし飲料にハ水又ハ稀薄き牛乳を與ふ若し陰部の出血多き時ハ必ず醫治を求むべし第二日より微溫の稀薄石炭酸水よて膣中を洗ふべし蓐婦の位置ハ半臥を可とす日本の風習ハ良ふず蓐婦に咳嗽ある時ハ殊に半臥を良とす產后六七日間ハ起立せしむべからず一週間の后ハ蓐婦自ら上圊して可なり溫浴を行ふハ一週間後になさしむべし然れども長きに過ぐべからず故に寧ろ脚湯を可とす三週間後に步行を許し五週間後ハ平常のごとくすべし

產床ハその儘用ひ可成仰臥せしめ枕ハ少しく斜なる位にて高過ざる樣になすべし日本の風習の坐臥ハ不可なり而して腰部陰部ハ微溫湯にて洗ひ傷なき時ハ前に述ぶる如く陰部にサル

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

チル酸綿または通常の綿と當るもよし創あれば速に醫治を求むべし足など煖め過ぎ又は冷え過ぐべからず食品は初日には粥または牛乳を稀薄して用ひソップを與へ二日目にはまた粥ソップと與へ三日目に至りては稍々固き粥などを與ふべし昔は鹽類を禁じたれども敢て禁ずるに及ばず精神は充分安靜ならしむべしその法は初め一週間位は可成人の交通を絶ち部屋は明に過ぐるはあしく且つ騷しき所は不可なり而して身體を安靜ならしむるが爲め初め三日間は臥床にて大小便をなさしむべしと雖もその際甚しく努責べからず故に初め二日間はカテーテルを以て尿を取るをよしとするも其法醫師にあらざれば行ひ難し産後は概して便秘し易きもの故三日目に至り便通なき時は醫治を乞ふべし大抵産后二週間が程は毎日石炭酸水を以て膣部を洗ふべしこれ他病の發生を防ぐが爲なり

蓐婦に種々の事情ありて小兒に哺乳せしむると能はざる時は通常の牛乳を用ふべし（生牛乳又はコンデンスミルク）然れども初より生牛乳を與ふるは恐くは不可ならん故に水二分と牛乳一分の比例にて與へ一箇月の終には等分となし殊に少し温めて用ふべし牛乳には糖分少きがゆゑ少量の乳糖を加ふべしコンデンスミルクは初生兒には凡そ十五倍となし微温にて用ひ品質は鷲の章あるものを善とす乳を與ふる器は常に清潔ならしむべし輓近はネステル氏の小兒粉と名くるものあり是は小兒の少く成長したるもの即ち生れて三箇月のものには大約八倍の湯に溶して用ふべしこの粉は少し臭氣あれども煮る時は消失すもし以上の勞を省かんと欲せば乳母を雇ふに如かず

乳母を雇ふの要件は左のごとし

（一）體質健全なるもの（二）遺傳病なきもの（三）廿歳より三十歳までのものを良とす（四）初産のものよりも經産のものを良とす（五）乳の分泌充分なるもの之を撿するに乳を絞れば線狀をなし迸出するものに限る然れども溜乳の爲めに欺かるゝ事勿れ（六）乳の性質善良なるものを選ぶべしこの試驗法は醫師にあらざれば爲し難し（七）乳母の小兒の發育如何を撿する事必要なり（八）乳母は痴呆あるべからず是れ小兒は習ひ性となり精神發育上大關係を有すればなり（九）分娩の期日大約同樣なるものを善とす遲くも三箇月を超ゆべからず（十）乳母の身分を撿すべし即ち夫あるものなどは惡しく

以上述ぶる所は往年産科に有名なる或る先生より受けたるものなり今記して貴舍に投ず

〔投寄甚だ多し追々に掲ぐべし廣嶋縣薔薇女史寄稿の趣き二つながら近日實行する運びなり〕

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

教育時論第五十八號

明治十九年十一月廿五日發兌　一册定價郵税共金六錢

○社說 東京茗溪會ノ事如何 ○禁酒論（高嶋平三郎）○實物教授論（郡司篤則）○學術哲學道中記（井上圓了）○圖式教授法（福地復一）○雜說すさびじろんの（ゑひ）○英文二節、月夜清談、家庭教育○論題、自由運動ト紀律運動トノ得失如何 孩兒ノ泣ク癖ト惡意地トヲ矯ムルノ良法如何（村尾愷太郎）猥褻ノ俚謠ヲ改良スルノ策如何（宮莊太郎提出）（八篇）小學生徒ヲ奬勵センガ爲メ筆墨紙ヲ賞與スルノ可否（三篇）論題、○內外雜纂三十件○官報抄錄三項○廣告十數件

發兌所　東京下谷練塀町十四番地　開發社

田中從吾軒先生著
令弟　小永井小舟先生評
門人　三木貞一校

○警醒鐵鞭

天堂記　地堂記　魔界記

木板精到半紙摺唐本仕立
全一册　定價金卅五錢
郵税不申受

從吾軒先生ハ佐倉ノ宿儒也經史ノ蘊奧ヲ極メ詩文一世ニ傑出ス然トモ放縱高蹈自ラ隱晦ス曾テ戲ニ警醒鐵鞭ヲ著ス言ヲ天堂地堂魔界ニ托シ以テ平生ノ蓄積ヲ發ス黑詈痛快忽ニメ神感シ鬼哭シ忽チニメ天笑ヒ人泣ク鐵鞭ヲ以テ尺餘ノ珊瑚ヲ一碎スルガ如シ是レ先生ノ一遊戲ニ過ギズト雖モ趣向命意一句一章ノ苟モセザル以テ文章家ノ龜鑑ト爲ベシ弊舖之ヲ請ヒ且令弟小永井先生ノ評ヲ得テ今度上梓賣出ス世人一讀メ未ダ斯文ノ地ニ落サルヲ知レ

東京京橋區三十間堀　九春堂

●篠澤南岳翁題字●草場船山翁題詞●天野方壺翁題畫●日柳三舟翁序文●贊擧諸家合評

●扶桑詩文

每月一回出版白紙摺金箋原表紙附唐本仕立美册每篇紙數四十二丁紙附

右扶桑詩文ハ每月一回二十日ヲ以テ刊行頒布スル者ニメ本舍々員諸賢ノ妙篇傑作ヲ蒐集シ贊擧員諸家ノ精批細評ヲ乞テ採錄ス其編輯ノ緻密ナル精巧ナル人ヲシテ驚ス差シ明治ノ一大詞史ト云ツヘシ亦体裁ハ四號ト五號トノ文字ヲ用ヰ本文ハ印汁墨ニテ題字詞序跋文ハ印汁黃綠朱等ノ諸色ヲ用ヒ其品格ノ清新ナル麗妍目ヲ眩ス古今ニ超越スト云フヘシ●舍員タラント欲スル者ハ至急入舍證金十錢ヲ送ラハ直ニ證牌ヲ交付ス但入舍申込ノ際詩文ノ近作アル方ハ添送ヲ乞フ●扶桑詩文ハ每刊必ズ舍員ヘハ無代價無遞送料ニテ呈送スルハ勿論每月詩文若干首ツヽ無料評正ス●第一號ニハ本舍編輯擔任嶋松軒先生著諸名家合評白紙摺唐本仕立舍猬櫻詩集全一册ヲ附錄トメ呈ス●第一號ニ限リ定數ヨリ二万五千部增刊ノ上日本全國有名大家先生ヘ頒布スルニ付全號ヘ廣告センド欲スル方ハ至急申込ヲ乞フ

●通常五號活字十八字詰一行金四錢
●特別六號活字廿四字詰一行金五錢
（廣告料前納ニ割引）

出版本局　島根縣出雲國神門郡杵築村　松軒學舍

贊擧
草場船山　神山鳳陽　江馬天江　林双橋　市村水香　內藤耻叟
藤澤南岳　石津灌園　土屋鳳洲　龜山節宇　日柳三舟　谷如意
佐藤牧山　天野方壺　內村鱸香　山下楓庵　坂本𣶉窓　小林卓齋

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ購誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增ー●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替劵と本舍へ御送附可被下候　但ー東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　績文舍
持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野錦五郎

大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　𡚴々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY